

ISO-2022-JP は、JIS X 0208 と ASCII を エスケープシーケンス によって切り替える運用方式（いわゆる文字符号化方式）です。7 ビットのみを用います。電子メールにおいてよく使われます。

ISO-2022-JP は元々、日本におけるインターネットの電子メールなどの運用（JUNET コード）を明文化する形で RFC 1468 として定義されました。JIS X 0208:1997 の附属書 2（RFC1468 符号化表現）にも取り込まれています。

名前が紛らわしいのですが、ISO-2022-JP は ISO で定義されている文字コードではありません。ISO/IEC 2022 の仕組みの一部を用いて日本の文字コードを ASCII とともに運用する一方式です。

符号の構造

7 ビットのみを用いる、1 バイト文字集合と 2 バイト文字集合を切り替えて使用する符号化方式です。符号化文字集合の切り替えには エスケープシーケンス を用います。エスケープシーケンス は下記のとおりです。

- ・ ASCII: 1b 28 42
- ・ JIS X 0208: 1b 24 42

なお、ASCII のかわりに JIS X 0201 ラテン文字集合（1b 28 4a）、および、JIS X 0208 の 1978 年版（1b 24 40）の エスケープシーケンス もありますが、今日では積極的に用いることはないでしょう。

JIS X 0213 との関係

JIS X 0213 では、対応する符号化方式として ISO-2022-JP-2004 が定義されています。JIS X 0213 の 漢字集合 1 面・漢字集合 2 面を指示する エスケープシーケンス が導入されます。

「JIS コード」との関係

ISO-2022-JP が俗に「JIS コード」と呼ばれることがあります。これは半分は正しいが半分は誤解に基づいているといえます。

計算によって変形を施したシフト JIS や MSB を立てた EUC とは違って、JIS X 0208 の 7 ビットのコード値そのままを使っているという意味で「JIS コード」というのは合っています。ですが、エスケープシーケンスによって特定の種類の 符号化文字集合を切り替えて使うという運用方式全体については、「JIS コード」ではなく（それは元来 JIS X 0208 の規定のスコープ外なので）、ISO-2022-JP だということになります。

バリエーション

エスケープシーケンスによって7ビットの範囲に ASCII や2バイト 符号化文字集合を切り替えて用いるという ISO-2022-JP の発想は、応用されていくつかのバリエーションを生んでいます。

- ・ ISO-2022-JP-1 - JIS X 0212 を追加

- ・ ISO-2022-JP-2 - 西欧・ギリシャ・中国・韓国を含む多言語対応
- ・ ISO-2022-JP-3 - JIS X 0213:2000 対応版
- ・ ISO-2022-JP-2004 - JIS X 0213:2004 対応版
- ・ ISO-2022-KR - 韓国語版
- ・ ISO-2022-CN - 中国語版

このリストは網羅的ではなく、また順不同です。これらには用いる制御コードなどにいくつか元の ISO-2022-JP がない方式を含むものがあります。

関連項目

- ・ ISO-2022-JP-2004 - ISO-2022-JP の JIS X 0213 対応版。
- ・ ISO/IEC 2022 - ISO-2022-JP はこの規格の一部の仕組みを利用している。